

# 大地の恵み 夏のごちそう編 ～庄内～



## だだちゃ豆

今から100年以上も前から栽培され、さやが茶色で一つのさやに2粒入っているものが多い。味は独特の風味と甘さ、旨味がある。

### だだちゃ豆をつかったレシピ

#### ～だだちゃ豆のあんかけ～

##### 材料 (2人分)

- 枝豆 …………… 35g
- 砂糖 …………… 少々
- 塩 …………… 少々
- おろし生姜 …………… 少々
- しょうゆあん (片栗粉1、醤油1、砂糖3、酒1、水7)

##### 作り方

- (1) 枝豆は茹でて薄皮を取り、すり鉢ですり潰す。
- (2) 砂糖、塩少々を混ぜ、ラップで茶巾にする。
- (3) しょうゆあんを作る。鍋にしょうゆあんの材料を入れ、強くかき混ぜ、照りが出るまで煉る。
- (4) 火を止めて冷めるまで時々かき混ぜる。
- (5) (2)のラップを取り皿に盛り付け、上からあんをかける。
- (6) お好みに合わせておろし生姜をのせる。

出典：おいしい山形推進機構事務局 山形県農林水産部 6次産業推進課

山から流れる川が  
つくった扇状地。  
豆づくりに最適な  
この地が育む  
真夏のごちそう。

収穫時期：7月～9月  
 主な産地：鶴岡市 白山地域  
 名前の由来：  
 (諸説あり、代表的な1例)  
 だだちゃは庄内地方の方言で一家の主の意味。殿様に献上した際に、味の良さから「これはどこのだだちゃのまめか?」と尋ねたことからその名が付いたと言われる。



## 須藤 修さん

南陽市出身。東北芸術工科大学プロダクトデザイン学科卒業。デザイン業と平行し、山と人との新しい関わり方を考える「YAMAMORI PROJECT」や、製品開発を通して山形の地を伝える「山の形」などで共同代表をつとめるなど、山形を軸にしたデザイン活動を行う。今年の秋には木を使ったものづくり体験ツアー「YAMAMORI TRAVEL」の開催を予定。

## もりしあ人

— 森があるしあわせを伝えたい —

県内の身近な森を舞台に木を使ったものづくり体験ができる「YAMAMORI TRAVEL」。本誌創刊号 (VOL.1) で御紹介したこの企画も今年秋の開催で14回目を数えます。「YAMAMORI PROJECT」をはじめ山形の木と人をつなげる様々な活動について、須藤修さんにお話を伺いました。

— 山形の木と人の暮らしをつなげたい。 —

— いまの活動のきっかけは? —  
大学の卒業研究ですね。「家具の修復」を研究テーマにしていて、テーブルの天板交換の依頼を受けたときのことです。修復の打ち合わせをしていると、オーナーから「天板に県産のクルミ材を使ってほしい。」と。すぐ手に入ると思っていた県内の木材市場で探したものの、これがなかなか入手できません。県産材、特に広葉樹が家具の用材としてあまり流通していないことに、そのとき初めて気が付きました。

— 地域の森を舞台に、五感で体験する「YAMAMORI TRAVEL」。 —

「YAMAMORI TRAVEL」も今年の開催で14回目になります。今までのツアーを振り返ってみていかがですか?」

山形県は全県にわたって豊かな森があり、そしてそれに関わる人がいます。だからその土地の人に会いに行き、話すことでその市町村にある要素を活かしたオリジナルのツアーが企画できます。

例えば、第3回目のツアーは西川町で開催しましたが、西川町は良質の杉である「西山杉」の産地なので、地元の方の御協力をいただいて「西山杉」を使ったオリジナルデザインのベンチの製作体験を行いました。



「YAMAMORI TRAVEL」で活動中の須藤さん

もちろん、お昼には西川町でよく食べられるひっぱりうどんや町産のきのこを皆でいただきました。森は五感で楽しめます。山の景色や木の香りで癒され、鳥や虫の声を聞き、西山杉の感触を楽しんで、おいしい森の恵みに舌鼓を打つ。「森が近くにある暮らしって何だろう?」一度立ち止まって、身近な森について見つめ直す機会を体験すると、参加者の方は皆喜んでくれます。活動を続けることで多くの人が地域の宝に気づいてくれると信じています。

— 子どもから大人まで木にふれることで生活をより豊かにしてほしい。 —

— 県では、森や自然の大切さを学び、森や木の文化を見つめ直す「やまがた木育」に



「oboco」で展示販売するガラガラ

— 取り組んでいます。これに関連するような活動はありますか? —

今年の6月2日、山形市七日町の「N-GATE」さん1階に「oboco」のショップをオープンしました。ここでは、食べものやクラフトをはじめ、子どもの想像力を育む石の形をした木製の積み木や、赤ちゃんにも安心な無添加の木製ガラガラなど、こどもの品物も展示販売しています。他にも子どもの暮らしのそばにあってほしいもの、大人になっても子ども心を思い出させてくれるもの、そんな全ての世代の方が親しめる製品を扱っています。



須藤さんのデザインによる作品「gura」のクラフトストアオリジナル商品「gura craft」のひとつ、小国町のブナを使用し製材跡を表情に活かした「罫目の皿」